

都市にうまれるノスタルジア

快楽とはヒトが感じるものである。ヒトとヒトがつながり、感情を動かされたり、喜怒哀楽を共有することでうまれる快楽。また、ときとして懐かしさや思い出となり、よみがえる記憶からうまれる快楽。
 ここは都市に住んでいるのにもかかわらず、人工物ではなくヒトとヒトによって賑わい、ヒトと生活を共にし、自然の移ろいや静けさを感じ、穏やかな時の流れる場所である。愛着を感じる場となり、いつしか懐かしさを感じるだろう。ヒトとヒトのつながりや穏やかな環境がヒトの感情を育み、そしていつしか思い出へと変わる今をつくりだす。



生態系が混じり合い、虫採りをする、植物を育てること、自然の中で体験が快楽をうむ。のびのびとした環境がヒトとヒトを近づける。



共同のキッチン&ダイニング。近所の人と食卓を囲む。今日あった出来事をみんなで振り返れる和やかな場となる。



共同の大浴場。普段の生活とは少し異なり、さらに親密な関係をつくりだす。落ち着いた感情から生まれる会話で賑わう。



縁側からこぼれる光にあつまり、縁側が近所のヒトと共有する空間となる。近所のヒトとの団欒の場となる。



地上では人が密集し、新たなGLでは住宅が散在する。モノにあふれた地上に対し、自然にあふれ、ヒトとヒトがつながり生活をする社会がつけられている。

0 都市の現状

都市は多くのヒト、モノが集まり、建物は密集し、積層され、利便性に富んでいる。多くの商業ビル群を中心に少し離れた場所に住宅群が広がる。それらは交通インフラによって結ばれている。携帯やSNSなどのテクノロジーの発達さらなる利便性を向上させ、ヒトとモノのつながりを強くした。しかし、人工物の密集した都市は、自然が減り、ヒトとヒトのつながりは希薄化、地域性や地域への愛着がなくなりつつある。都市は個人が孤立し、人工物に支配された世界である。□



1 新たなGLを計画する

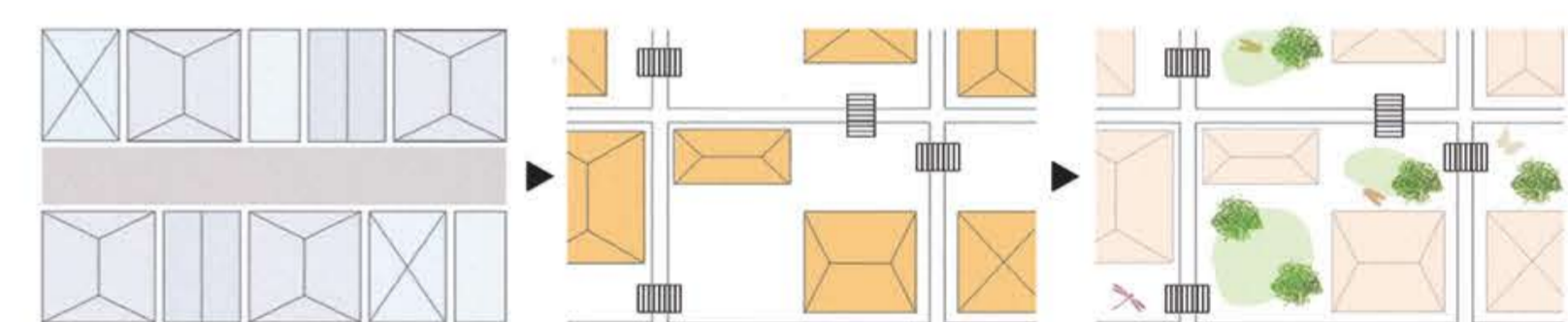
密集された都市の体系に対し、住宅の新たなGLとして商業ビル群の屋上に住宅群を計画する。近隣のビルとビルは階段や橋で結ばれ、住宅が広がり、都市の街区ごとに地域体を形成する。商業と住宅がエレベータによってつながることで、都市の利便性と直結し、最大限都市を住みつくす。



密集した都市のビル群。利便性はあるが、のびのびとした空地がない。
 ビル群の屋上に住宅の新たなGLとして住宅群を計画する。
 ビルのEVで地上と結ばれ都市の利便性を獲得。近隣のビル同士は橋や階段によって結ばれる。

2 住宅の分散配置

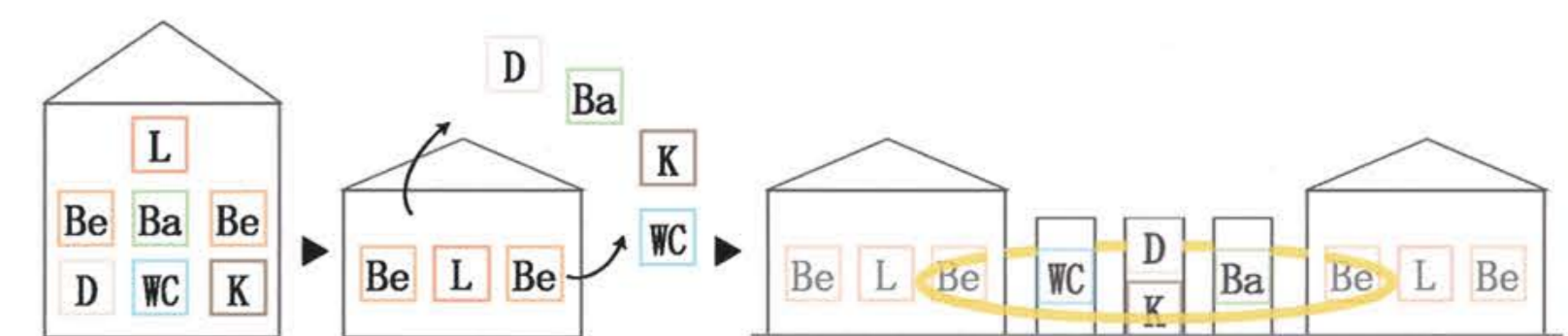
建物どうしを空地を設けながら分散配置する。空地は緑地や広場空間、公園となり、自然の色やにおい、風を感じ、近所の人と交わりをうむ空間となる。住む人の外へのアクティビティを誘い出す。



現在の都市の住宅群。密集した都市の住宅群。建物は狭い土地に押し詰められ、積層された環境。
 新たなGLの住宅群。住宅同士の密集を解消し住宅間に余裕のある配置。
 スペースを緑化。新たな生態系が増え、各々の肌で自然を感じるのびのびとした環境。

3 喜怒哀楽を共にする

生活に必要な機能がすべて整った現代の住宅を分解する。個々の家族の空間は設けつつも、キッチンやダイニング、お風呂、トイレといった機能を切り離し、シェアスペースとして設ける。ヒトとヒトのつながりをうみ、喜びや嬉しさ、楽しみを共有する生活となる。ヒトとのつながりで生まれる感情から快楽が生まれ、いつしか抱いた愛着や思い出が快楽となって振り返られる。人工物だけではない新たな生活が快楽に溢れる都市生活へと変化する。



現代の家の機能の中からダイニング、お風呂、キッチン、トイレを切り離す。
 切り離された機能を他者と共有することで、生活の中でヒトとヒトのつながりをうむ。ヒトとヒトが場を共にし喜怒哀楽を共有する生活が快楽をつくりだす。
 L:リビング Ba:浴室
 D:ダイニング Be:寝室
 K:キッチン WC:トイレ